

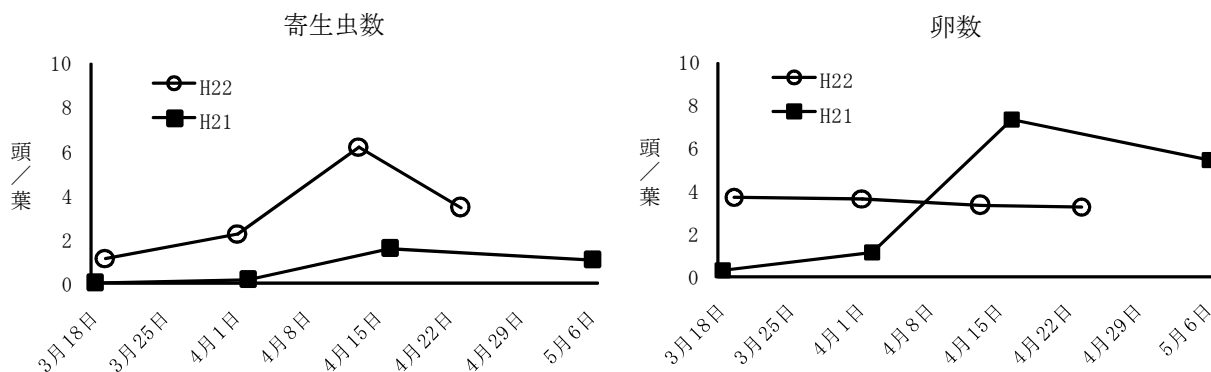
平成 22 年 4 月 30 日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

チャ「カンザワハダニ」の発生に注意しましょう

3月以降、試験場の無散布園ではカンザワハダニの幼虫・成虫の発生が多く推移しています。4月以降に低温・多雨傾向で推移しているため、今のところ現地での発生や被害は目立っていませんが、今後摘採前に発生が多くなることが懸念されます。また、霜害にあった茶園ではカンザワハダニの発生が助長される傾向があります。

1 発生の状況

本年は春先の気温が高かったため成虫・幼虫の発生が早く、幼虫・成虫の合計は昨年を大きく上回る密度で推移しています。



2 防除の考え方

- 1) 古葉の裏での発生が多く、新芽に生息が認められる場合は使用基準を守って防除を行う。
- 2) 特に被覆を行う場合は、被覆後の防除が困難となるので、被覆前に必ず発生を確認する。
- 3) 一番茶摘採後の発生も懸念されるので、摘採後は速やかに防除を行う。

カンザワハダニ防除薬剤

薬剤名	倍数	摘採前日数	備考
ダニゲッターフロアブル	2000倍	7日前	サビダニ同時防除可能
スターマイトフロアブル	2000倍	7日前	
ダニサラバフロアブル	2000倍	7日前	

3 留意点

- 1) 防除薬剤は、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。
- 2) 薬剤は、農業研究部病虫害チームホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/oita/>) 内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

担当：大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部 茶業チーム  
TEL：(0974)－22－0671